



みなとしみず

発行

国土交通省中部地方整備局
清水港湾事務所

御前崎港事務所/下田港事務所/田子の浦港事務所

静岡市清水区日の出町7番2号

TEL. 054-352-4146 (代表)

<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

清水港新興津地区国際海上コンテナターミナル第二期事業 いきいき交流みなとまちづくり事業 着工式開催！！

清水港新興津地区国際海上コンテナターミナルの第二期事業の着手並びに、海洋レクリエーション拠点として小型船だまりなどを整備する「いきいき交流みなとまちづくり事業」の着手を祝い、1月25日に中部地方整備局、静岡県、静岡市主催の着工式を開催しました。

式典は、静岡市興津生涯学習交流館において、関係者など約90名の出席のもとに行われました。富田英治中部地方整備局副局長、石川嘉延静岡県知事、小嶋善吉静岡市長の主催者挨拶に続き、加納時夫国土交通副大臣から、「本事業の着工により物流の効率化、ものづくり産業の支援が図られ、地域経済が活性化することを期待しています。」との挨拶があり、望月義夫衆議院国土交通委員会委員長、大口義徳衆議院議員の祝辞の後、藤井敦清水港湾事務所長による事業説明、テープカット、基礎石投入と続き、地元の宗像神社太鼓保存会8名の皆様による「宗像太鼓」の勇壮な演奏で式を締めくくりました。



基礎石投入



加納時夫国土交通副大臣

望月義夫衆議院
国土交通委員会委員長

大口義徳衆議院議員



テープカット



宗像太鼓の演奏

ファインダーの向こう

この写真は、旧由比町(昨年11月に静岡市と合併)に位置する標高707メートルの浜石岳からみた清水港です。いつも見慣れていて、先月号でもご紹介した日本平から見た清水港の姿とはまた違う趣があります。

三保半島が画面右から伸びている様子や二本の防波堤が港内を守っている様子がおわかりいただけるかと思います。画面の中央には先日、第二期事業の着工式を行った新興津地区の第一コンテナターミナルの三基のクレーンを見ることが出来ます。第二期事業により画面左の方向に岸壁と防波堤が延伸されることとなります。さらに、その先には小型船だまりと人工海浜の整備が行われます。

新興津コンテナターミナルが位置する興津地区は東海道五十三次の十七番目の宿場町として栄え、また、海岸沿いにあった清見潟は風光明媚な景勝の地として全国的に有名だったそうです。

興津地区は港の整備などにより、かつての面影は殆どなくなりましたが、いまでは我が国を支えるコンテナターミナルのひとつとして重要な役割を担っています。そして、人工海浜の整備により人々と海との触れ合いの場所が再びこの地に生まれることを願っています。



浜石岳からみた清水港

©Fujii Atsushi

清水港湾事務所長 藤井 敦

みなとへの想い 牧之原市長 西原 茂樹

平成21年がスタートしました。



元旦の相良海岸から昇る朝日は近年になくとてもきれいでした。平成15年に御前崎港マリーナを会場に開催されました国体ヨット競技で大活躍をした相良高校ヨット部の皆さんが、帆に「謹賀新年」の文字を書き込んで海上を帆走して初日の出に花を添えてくれました。

御前崎港は整備が進み、スズキ（株）の完成車輸出港として、あるいは九州地域と東京地域のRORO船の中継港として、そして最近ではアジア圏とのコンテナ輸出入港として活況を帯びてきました。

しかし、昨年9月に始まった世界同時不況の大津波は、自動車産業を中心にした牧之原市など周辺地域の景気に大きな影響を与えています。港の扱いについても急激な取扱量の減少が始まっており、今後の経済動向が心配されます。



御前崎港

ただ、悪いニュースだけではありません。富士山静岡空港の開港が6月4日に決まり、それらを結ぶ地域高規格道路金谷御前崎連絡道路も全線開通のめどが立ってきました。これら陸海空に恵まれた地域です。次の景気浮揚時に備えて国や県と連携して、着実に社会資本整備が進むよう取り組んでまいります。



スズキ株式会社
相良工場



国道150号バイパス大沢ICより
御前崎方面



萩間川相良水門から望む富士山

本ページの写真提供: 牧之原市

夢とロマンのクルーズ客船

清水港客船誘致委員会 会長（アオキトランス株式会社 取締役会長） 望月 薫

平成2年2月、豪華客船「クイーンエリザベスⅡ（QEⅡ）」の清水港入港を機に、「白い船（＝客船）を清水港に！」をスローガンに『清水港客船誘致委員会』が設立され、活動が始まりました。

以来、その活動は山あり谷ありの連続でしたが、長年の地道な誘致活動がようやく実を結び、平成14年以降、外国客船が毎年清水港へ入港するようになりました。

客船の誘致活動は国内だけでなく、世界のクルーズ会社を訪問し、富士山を背景にした絵になる清水港の魅力や、寄港船への市民による歓迎「もてなし」を発信するなど、清水港のPRに努めて参りました。



外国クルーズ船「クイーンエリザベスⅡ」
(H2. 2 清水港に初入港)

外国客船のように、単なる寄港地として寄港してもらうばかりではなく、この清水港から乗船するクルーズマーケット創出の上でも、そして、賑わいのある港にするためにも、清水港への客船誘致は重要な要件であると考えております。

また、委員会では客船だけでなく、帆船なども誘致対象としており、「太平洋の白鳥」とも「海の貴婦人」とも云われる「日本丸」や「海王丸」が、二十数年に亘り毎年秋口に寄港し、清水港の秋の風物詩となって、市民にロマンと楽しさを与えてくれております。

多くの客船や帆船が寄港することにより、清水港がもっと市民に開けたものとなり、市民が親しみ、人が集まる港へと、これからも客船誘致活動を推進してゆきたいと思っております。



外国クルーズ船「クリスタルハーモニー」
(H15. 4 清水港に初入港)



外国クルーズ船「ハンセアティック」
(H19. 10 清水港に初入港)



練習帆船「日本丸」
(H19. 10 撮影)



外国クルーズ船「クリスタルセレンティ」
(H16. 2 清水港に初入港)

客船等入港予定★2009★

※予定は変更される可能性があります。
ご注意ください。

船 名	種 別	入港日時	出港日時
大成丸	練習船	平成21年3月2日(月) 11:00	平成21年3月6日(金) 16:00
クリスタル セレンティ	外国クルーズ 客船	平成21年4月15日(水) 9:00	平成21年4月15日(水) 17:00
ハンセアティック	外国クルーズ 客船	平成21年6月22日(月) 10:00	平成21年6月22日(月) 20:00
ブレーメン	外国クルーズ 客船	平成21年9月30日(水) 8:00	平成21年9月30日(水) 18:00
日本丸(未定)	練習帆船	平成21年10月ごろ	平成21年10月ごろ

※清水港客船誘致委員会HPアドレス※ <http://www.shimizu-port.jp>

本ページの写真提供: 清水港客船誘致委員会

現場から 下田港防波堤【ケーソン鋼殻製作工事】

下田港は、伊豆半島の先端に位置し、その周辺は、複雑な地形と厳しい海象条件から、海難事故が多発する海域のため、古くから船の避難場所として利用されています。当事務所では昭和60年(1985年)より、船舶の避難場所を確保するため、また地震発生時には、津波から下田市民の生命や財産を守る津波の低減効果を図ることを目的として、下田港の防波堤の整備を進めています。

防波堤を設置する場所の水深は、最大で42mと非常に深く、防波堤で使用するケーソン(鉄筋コンクリート製の箱)は、高さ約20m、重さ約3,500tもあり、全国でもトップクラスの大きさです。また、ここで使用されるケーソンは、「上部斜面スリット式ケーソン」といって、防波堤に波消し効果のあるスリットが入った構造になっているのが特徴です。

現在鋼殻は、JFEエンジニアリング株式会社清水製作所で製作されており、完成すればジャンボジェット機の重さとほぼ同じ約340tにもなり、トラックなどで陸送することができないため、船を使って、清水港から下田港へ運搬されます。3月には鋼殻が下田港へ運ばれ、7月にはケーソンが完成する予定です。



下田港のスリット式ケーソン



鋼殻は、8ブロックに分けて製作されます。屋内で製作されるので、天候の影響を受けることなく、スムーズに作業が進みます。



ブロックは、工場の屋根を開け、クレーンで吊り出し、屋外で組み立てます。



ブロック搭載の様子。



全てのブロックが組み立てられました。

=工場見学= テツのプロ！ JFEエンジニアリング(株)清水製作所

「従業員200人で、日本各地の地域に貢献できる仕事をしている。」とJFEエンジニアリング株式会社清水製作所宮城島良夫さんは話してくれました。

この製作所では、東京の六本木ヒルズの鉄骨や、静岡の富士川にかかる逢来橋などの鋼構造物のほかに、現在拡張工事中の、東京国際空港(羽田空港)の滑走路の棧橋部(滑走路を鉄の柱で支えている部分)で使用する、「ジャケットブレース」も製作しています。

ジャケットブレースの製作には、鋼管を斜めに立体切断する工程があり、その技術は日本一と言っても過言ではないそうです。製作されたジャケットブレースは千葉まで海上輸送され、ほかの鋼管と組み立てられますが、現地で修正加工することなく、ピッタリと溶接できるそうです。

全国有数のものづくり県といわれる静岡県ですが、この作業所で働いている方々も、その一員なのですね。とても誇らしげに映りました。



完成した「ジャケットブレース」は、船を使って運搬されます。



東京国際空港(羽田空港)ジャケットブレース部材曲線溶接開先切断状況。



ジャケットは、沖合の据付位置まで、起重機船を使って運ばれます。



ほかの鋼管と組み立てて、ジャケットが完成。ブレースは、下部の横方向と斜めの部分です。



建設中の東京国際空港(羽田空港)の滑走路(D滑走路)

写真提供 ★ 羽田再拡張 D 滑走路 JV
★ JFEエンジニアリング株式会社清水製作所

海とみなとの相談窓口



おーいに

全国共通フリーダイヤル

よくなれ みなと

0120-497-370

受付時間: 9時30分~12時、13時~17時(土・日、祝祭日は除く)

☆携帯電話・PHSからもご利用できます☆

- ・海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- ・みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- ・みなとの防災に関すること

その他、海とみなとに関することは何でもお問い合わせください

■ 本紙に関するお問い合わせ先 ■

清水港湾事務所 企画調整課
太田・屋敷

Tel 054-352-4148

e-mail

shimizukouwan@pa.cbr.mlit.go.jp